

- 道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。
そのわたしたちの罪をすべて 主は彼に負わせられた。
- 7 苦役を課せられて、かがみ込み 彼は口を開かなかった。
屠り場に引かれる小羊のように
毛を切る者の前に物を言わない羊のように 彼は口を開かなかった。
- 8 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。
彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか
わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり
命ある者の地から絶たれたことを。
- 9 彼は不法を働かず その口に偽りもなかったのに
その墓は神に逆らう者と共にされ 富める者と共に葬られた。
- 10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ
彼はみず自らを償いの献げ者とした。
彼は、子孫が末永く続くのを見る。
主の望まれることは 彼の手によって成し遂げられる。
- 11 彼は自らの苦しみの実りを見、それを知って満足する。
わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために
彼らの罪を自ら負った。
- 12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし
彼は戦利品としておびたしい人を受ける。
彼が自らをなげうち、死んで 罪びとのひとりに教えられたからだ。
多くの人々の過ちを担い 背いた者のために執り成しをしたのは
この人であった。

【春季キリスト教教育強調週間の奨励と茶話会の報告】

先週のキリスト教教育強調週間では本学出身の牧師で幼児教育に携わっている安部一徳先生が情熱的に奨励をしてくださり、礼拝後の茶話会にも学生・教職員が10名以上参加して意義深い交わりのときを持ちました。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝の前後にオルガン前で練習をしています。

【次回の大学礼拝】2018年6月12日（火）10時40分

今回の奨励は、三浦照男先生（インド・サンヒギンボトム農工大学教員・本学出身）がご担当くださいます。礼拝後茶話会もあります。学生さんも教職員もお弁当を持参して参加してください。飲み物とお菓子の用意があります。インドのお話を聞きたい人には、とくにお勧めです。

【前回の大学礼拝】2018年5月29日（火）10時40分

学生 416名 教職員ほか 20名 合計 436名

【大学礼拝週報】 2018年度 第8号（前学期第8号）

2018年6月5日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

- 前 奏 「主イエス・キリストよ、み顔を我らに向け」
(J. C. バッハ作曲)
- 讃美歌 讃美歌 320番（主よ、みもとに）
聖書 イザヤ書 53章1-12節
祈り
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「アンパンマンとイエス・キリスト：史上最弱のヒーロー」
高橋優子（獣医学類獣医倫理学研究室准教授）
- 報告
讃美歌 讃美歌 543番（主イエスのめぐみよ）
後奏 「全地よ、神に向かって喜び呼ばわれ」（ブロート作曲）

【本日の聖書】イザヤ書 53章1-12節

- わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。
主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。
- 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように この人は主の前に育った。
見るべき面影はなく 輝かしい風格も、好ましい容姿もない。
- 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ 多くの痛みを負い、病を知っている。
彼はわたしたちに顔を隠し わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。
- 彼が担ったのはわたしたちの病
彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに
わたしたちは思っていた
神の手にかかり、打たれたから 彼は苦しんでいるのだ、と。
- 彼が刺し貫かれたのは わたしたちの背きのためであり
彼が打ち砕かれたのは わたしたちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって わたしたちに平和が与えられ
彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。
- わたしたちはヒツジの群れ